

台湾人大学生の日本での看護・介護に関する意向調査—日 本語学科生と看護・福祉・医薬系学科生との比較を中心に

—

王敏東

國立台灣科技大學應用外語系教授

要旨

本稿は、日本語または、看護、老人福祉、医薬を専攻している台湾人大学生を対象に、アンケート調査を実施し、彼らの日本で看護・介護をする意向について検討した。5尺度33問を含むアンケート調査を実施し、SPSSを利用して記述統計、因子分析、t検定、分散分析による分析を行った。その結果、日本語学科の学生より看護、老人福祉、医薬を専攻している学生の方が日本で看護・介護をする意向が強いということが明らかになった。しかし、看護、老人福祉、医薬を専攻している学生は、より高い報酬を想定している。

キーワード：大学生、専攻、報酬、日本滞在、日本語学習歴

**Willingness of Taiwanese University Students to Be
Nursing in Japan: A Comparison Study of Students
Majoring in Japanese, Nursing, Senior Citizen Welfare and
Business, Pharmacy, and Medicine**

Ming-Tung Wang

Professor, Department of Applied Foreign Languages, National Taiwan
University of Science and Technology

Abstract

This study uses questionnaires to investigate into the willingness of Taiwanese university students from Departments of Japanese, Nursing, Senior Citizen Welfare and Business, Pharmacy and Medicine for their intention to serve in nursing in Japan. The questionnaires included 33 questions at 5 levels and were analyzed by SPSS, factor analysis, t-test and analysis of variance. The results reveal that students from Departments of Nursing, Senior Citizen Welfare and Business, Pharmacy and Medicine have stronger willingness than those from Department of Japanese to serve in nursing in Japan. However, non-Japanese majors expect higher salaries than Japanese majors.

Keywords : university students, majors, salaries, stay in Japan, Japanese learning experience

台湾人大学生の日本での看護・介護に関する意向調査—日本語学科生と看護・福祉・医薬系学科生との比較を中心に—

1. はじめに

少子高齢化社会の進行にしたいがい、日本では看護・介護分野での人手が不足している。2008年のインドネシアを皮切りに、その後フィリピン、ベトナムからも外国人看護師・介護士候補生が日本のこの分野へ導入されるようになってきている。しかし、実際に来日している人数が必要な人数には到底及ばないほど少ない上に、一定の期間内で日本の国家試験に合格し、看護師・介護福祉士の資格を取得するという規定を満たせず帰国した候補生が多かった。よって、外国人ヘルスワーカーをより積極的に受け入れようと求める声があり、国際交流基金関西国際センター（2009）や海外技術者研修協会（2010）も看護・介護に関する教材を編纂するようになっている。

このような、日本における看護・介護分野での人手不足の深刻さは、台湾の新聞にも報道されている¹。

この外国人看護師・介護士をめぐる研究としては、国家試験対策、日本語学習歴、施設側の現状、患者・利用者の反応などに関する考察などが数多く見られた。また、外国人看護師・介護士の受け入れ、定住を含む「人の移動」の円滑化を促進するためには、日本政府主導の目的別・専門分野別海外日本語教育の開拓といった新たなプログラムに視点が向けられるべきだという観点もある²。台湾ではたとえば交流協会が2015年3月14日に宮崎里司氏を招き、「医療・福祉従事者のための日本語教育」についての日本語教育研究会を行った。

¹ 黄（2015.2.27）。

² 佐藤（2014）。

このような状況の下、従来日本を好意的に見ている台湾人³は、日本で看護・介護をする意向がどの程度あるのだろうか。日本におけるこの方面の政策や制度にしろ、台湾での医療・福祉に関する日本語教育にしろ、実態を知った上で議論が必要で、統計的なデータを把握してからはじめて今後の対策がたてられる。本研究は台湾人大学生の日本で看護・介護をする意向を明らかにしたい。また、そのような意向は日本語または、看護、老人福祉、医薬といった専攻によって違いが見られるか、ということについても検討したい。

2. 台湾の高等教育の現場における、日本語学科ならびに看護、老人福祉、医薬に関する学科

台湾には 2015 年現在四十あまりの日本語学科がある⁴。これらの日本語学科を有する大学のうち 5 校では、医学部や看護・健康学部も設けられている。しかし、当然のことながら、日本語学科では医療・看護や福祉に関する授業はほとんど開講されていない⁵。

台湾では 2015 年現在 13 の大学に医学学科⁶が設けられている。高収入や社会地位の保証が見込まれることから、医学学科に入ることは難しく、大学入試の成績では常に最上のランクにある。また、看護、薬学、老人福祉の学科⁷は、大学により、医学部、看護学部、健康学部などに帰属することがある。看護師、薬剤師も台湾社会では需要・求人が多く、収入もいい方である。就職の機会が多いこともあり、3Kを敬遠するため、一般の医療現場を離れ、夜勤がほぼ要らない、報酬が高い美容整形の業界に転職する看護師が増えているという。言

³ 財団法人交流協会（2009、2012）によると、台湾人が最も好きな国は日本だという。

⁴ 外国語学科の下に「日本語組」が設けられているのもあり、ここ数年日本語学科がそのような「組」に変わったのもあったので、概数四十あまりとしておくことにした。

⁵ 中山医学大学応用外国語学科（「日語組」あり）では、「医護日語」が開講されている。他の日本語学科では、日本の少子高齢化などに関する文章・記事が、読解や「新聞日本語」の授業の内で何回か取り上げられるのみである。

⁶ 大学を卒業した後進学する、漢方医を養成するための「学士後中医系」という学科を含む。

⁷ 2015 年現在台湾には、看護学科が 31、薬学が 8、老人福祉学科が 12 ある。

うまでもなく医師、薬剤師、看護師はいずれも、学校で教育を受けるのみならず、国家試験に合格してから始めてなれるものである。このような医療・看護や福祉に関する学科で日本語が開講されるかどうか、または卒業する単位として認定されるかどうかは学科によって違う。基本的に日本語は医療・看護や福祉に関する人材を養成するのに不要なもので、履修する学生がいても、個人の趣味的な部分が大きい⁸。ただし、台湾では長年、日本語が学生に最も人気のある第二外国語である⁹。

このような状況からすると、現段階では台湾の大学に、日本語が堪能であると同時に、医療・看護や福祉に関する知識が豊富で、しかも実際看護・介護をする技能・技術を有する学生は稀であることが推察できよう¹⁰。

3. 先行研究

本研究のテーマである「台湾人大学生の日本で看護・介護をする意向」に深く関与する論考は管見の限り見付けられなかったが、日本における外国人看護師・介護士の来日動機、外国人看護師・介護士の日本語力、さらには台湾における医学部での日本語教育、台湾で得られる、日本の看護・介護の現状についての情報など、本研究のテーマにかかわると思われる考察には以下のようなものがあげられる。

まず、安立・大野・平野・小川・クレアシタ（2010）は、2009年に実施した、インドネシアやフィリピンからの介護福祉士候補者を対象としたアンケート調査の結果を報告している。調査の内容には、候補者の性別、年齢、婚姻状況、宗教、日本に住んだことがあるかどうか、日本文化についてどの程度知っているか、経済状況、介護士経験、来日動機、不安なこと¹¹などが含まれる。来日

⁸ 王（2010）。

⁹ 高級中學第二外語教育學科中心（2015. 12. 28）。

¹⁰ 表2における今回の調査でも分かる。

¹¹ 仕事の内容、収入、コミュニケーションなどについての不安が含まれている。

動機に影響すると思われる経済状況についてみると、インドネシア人よりフィリピンの方が、経済状況が苦しい人が多い。また、「日本の文化（アニメーションや漫画など）に関心があるから」、「日本での経験を、将来他国の病院や施設で生かしたいから」、「日本に働きに行くことを家族から勧められたから」などの動機を選択する比率は、インドネシア介護福祉士候補者の方が有意に高いという。なお、「自分のキャリアをのばしたいから」と「家族を経済的に支援したいから」は、インドネシア介護福祉士候補者の来日動機の1位と2位となっているが、フィリピン介護福祉士候補者の場合はその逆の2位と1位となっている。来日動機に関しては、両国とも性別による違いはあまり大きくなかった。

また、平野・小川・大野（2010）はアンケート調査の結果より、外国人看護師候補者（インドネシア人144人とフィリピン人100人）の社会経済的属性と来日動機の違いについて国別の比較を行った。調査の結果、フィリピンの方が平均年齢が高く、既婚者と子供を持っている者の割合も高かった。来日動機は、フィリピンの方がインドネシア人より多岐にわたる傾向がある。経済的状況の来日動機への影響については、インドネシア人には見られるがフィリピン人には見られない、という。

高本（2011）は、日本における異文化間看護・介護の現状、制度的な問題・課題、言語・文化・コミュニケーションの問題に分けて日本における外国人看護・介護を概観している。

畠中・田中（2012）は在日外国人看護師・介護士候補生の異文化適応を取り上げて論じている。候補生の異文化適応の一環として、候補生の来日動機と属性、候補生の出身国における教育的背景、候補生の感じる困難など候補生の実態に触れられている。

一方、台湾の刊行物で発表された論考に、陳（2009、2010）、佐藤（2014）、王（2010、2013）などがある。

陳（2009）は、日本人（115人）の外国人看護師・介護士を利用する意向および原因を調査したところ、57%の日本人に利用する意思があることが分かったという。その理由として、日本人看護師・介護士より外国人看護師・介護士の方が供給が安定していること、家族の疲れやストレスの軽減、などがあげられている。陳（2010）は外国人看護師・介護士を利用する意向について、2009年に日本人（鹿児島在住の119人）を対象にアンケート調査をした。57%の日本人は利用する意向があると示したのに対して、利用したくない理由の1位と2位はそれぞれ、言葉によるコミュニケーションへの懸念と、異文化間のギャップに対する心配、という結果を得た。

佐藤（2014）は「人の移動」を中心に検討する中で、日本における外国人ヘルスワーカーの受け入れを例にして、海外日本語教育制度の再検討を呼び掛けている。

また、王（2010）は台湾の医学部で日本語を第二外国語として教授した経験を報告し、王（2013）は日本における看護・介護の様子を紹介している。

最後に、日本の看護・介護という主題に直接かかわるものではないが、台湾人の若者がワーキング・ホリデーの形で日本で働く（または働いた）感想・経験について王・呉（2013）の報告があった。ワーキング・ホリデーに日本語の上達と日本で暮らす体験を期待している若者が多いことや、台湾人の若者が日本語力に自信がないこと、などが分かった。

4. 調査の概要

前述したように、日本における看護・介護の状況については台湾でもある程度知られているが、台湾人自身が直接日本のこの現場に赴く意向を持っているかどうかに関する報告は管見では見当たらない。よって、本稿は台湾人大学生を対象に、彼らの日本で看護・介護をする意思について調査してみた。

調査の内容は、学生の専攻、性別などの個人資料（詳細は表2を参照）の他、

前述した先行文献や、刊行されている看護・介護の日本語教材を吟味した上設計した、日本で看護・介護をする意向にかかわる 35 問で構成されている。35 問のうち 33 問は「非常によくあてはまる」(5) から「全くあてはまらない」

(1) の 5 段階評価で評定するもので、後の 2 問は日本で看護・介護をする場合の適切な期間および報酬 (月給) につきそれぞれ 6 つの選択肢から選ぶものである。

調査結果は、調査を受けた学生全体、「日本語を専攻している学生」、「看護、福祉、医薬分野を専攻している学生」、という 3 つの部分各々について検討する。

4-1 調査期間と手続き

調査時期は 2015 年 2 ～ 3 月である。調査を実施したのは筆者本人、もしくは依頼先の大学に勤務している教師または在学中の学生である。調査票の使用言語は中国語である。

4-2 研究対象

台湾人が海外へ出稼ぎに行くことは一般的でないため、調査対象はこれから就職する (日本に就職する可能性のある) 現役の大学生にした。先行文献でも分かるように、日本で看護・介護をする際には、日本語力または看護、老人福祉、医薬の分野に関する知識が大きな鍵となっているため、今回は調査範囲を日本語または、看護、福祉、医薬分野を専攻している学生に限定した。また、調査結果が同一大学の同一分野 (専攻) の意見に偏ることがないように、同一大学の同一分野での調査票の配布数は 25 部を上限とした。各大学で配布・回収したアンケートの内訳は表 1 の通りである。

表 1 回収したアンケートの内訳

専攻		大学数	配布した数	回収した数	計
日本語	日本語	6（国公立 2、私立 4）	150	144	144
看護、福祉、医 薬分野	看護	5（国公立 3、私立 2）	53	44	155
	老人福祉	2（国公立 1、私立 1）	50	50	
	医薬	6（国公立 3、私立 3）	65	61	
			318	299	

有効回答票は 299 票で、回収率は 94%である。

回答者の内訳は表 2 のようになっている。

表 2 本研究におけるアンケート回答者の内訳

		日本語 (n=144)		看護、福祉、医薬分野 (n=155)	
		人数 ¹²	%	人数	%
専攻分野	日本語	144	100%	—	—
	看護	—	—	44	28.4%
	老人福祉	—	—	50	32.3%
	医薬	—	—	61	39.4%
学年	低学年 (1 年生と 2 年生)	72	50.0%	78	50.9%
	高学年 (3 年生以上)	70	48.6%	75	49.1%
性別	男	38	26.4%	48	31.4%
	女	106	73.6%	105	68.6%
日本滞在期 間	なし	40	27.8%	96	63.2%
	(1 ヶ月未満の) 数日	81	56.3%	51	33.6%
	数ヶ月以上	22	15.3%	5	3.3%
日本語学習 歴	専攻	143	99.3%	—	—
	選択科目として履修したことがある	—	—	54	35.4%
	個人的な趣味にとどまる	—	—	29	19.1%
	日本語を習ったことはない	—	—	64	42.1%

¹² 人数が 144 に達していないのは無記入のものがあつたためである。また、看護、福祉、医薬分野を専攻している学生の人数が 155 に達していないのも無記入のものによる。

	その他	—	—	5	3.0%
日本語能力 試験	合格していない	64	44.4%	140	94.0%
	N5	5	3.5%	0	0%
	N4	5	3.5%	0	0%
	N3	7	4.9%	2	1.3%
	N2	30	20.8%	2	1.3%
	N1	25	17.9%	3	2.0%
	その他	4	2.9%	2	1.3%
高齢者の看 護・介護に 関する知識	全くない	108	75.0%	25	16.1%
	個人的な趣味にとどまる	33	22.9%	37	23.9%
	看護、福祉、医薬分野を専攻し ている	—	—	85	54.8%
	その他	5	21%	2	1.3%

表2で分かるように、看護、福祉、医薬分野を専攻している学生の半分以上が、「選択科目として履修したことがある」または「個人的な趣味にとどまる」という日本語学習歴を持っている。また、彼らの中にはごく少数だが、日本語能力試験に合格している学生もいる。一方、高齢者の看護・介護に関する知識が全くない日本語学科の学生は75.0%もいる。

4-3 アンケートにおける信頼性ならびに有効性

表3に示すように、本研究におけるアンケートの信頼性は高い(>0.7)。

表3 本調査における信頼性

専攻	Cronbach's Alpha 値
全体	.811
日本語	.728
看護、老人福祉、医薬	.852

4-4 本研究における分析

調査票で得られたデータについて、①基本統計量の算出、②度数分布の算出、③ t 検定・分散分析、④因子分析の算出、の 4 つの分析を行い、3 節に分けて述べる。

第 1 節（4-4-1）は、①と②で、学生が同感の意を表す項目のランキング表（順位）を提示する。また、前掲表 2 で提示した学生のグループ分けにしたがい、学生の各グループ間で日本で看護・介護をする意向に差が見られるか検討する。分析方法は因子分析、t 検定（性別）、分散分析（One way-ANOVA）（学年、日本滞在期間、日本語学習歴、日本語能力試験の級数、高齢者の看護・介護に関する知識）を使用する。なお、「日本語を専攻している学生」と「看護、福祉、医薬分野を専攻している学生」という 2 グループの学生におけるそれぞれの分析も行う。

第 2 節（4-4-2）は、学生全体と、「日本語を専攻している学生」と「看護、福祉、医薬分野を専攻している学生」という 2 グループの学生の各々の、因子分析を行い、学生が日本で看護・介護をする意向を構成する成分を抽出して検討する。

第 3 節（4-4-3）はアンケートの最後の 2 問、つまり学生が考える、日本で看護・介護をする場合の適切な期間および報酬（月給）について検討する。

4-4-1 学生の日本で看護・介護をする意向の傾向（順位）

学生の日本で看護・介護をする意向の傾向（同感の意を表す項目のランキング）は表 4 の通りである。

表 4 日本で看護・介護をする意向の順位¹³

項目（設問の番号および内容）	全体 (n=299) 順位/平均	日本語学科 (n=144) 順位/平均	看護、福祉、 医薬分野 (n=155) 順位/平均
[1]私は日本のことが好きだ。	1 / 4.36	1 / 4.42	1 / 4.31
[2]私は日本で就職したい。	16 / 3.27	9 / 3.52	22 / 3.04
[3]私は明るい性格だと思う。	11 / 3.56	10 / 3.44	12 / 3.66
[4]私は人との交際・対応が得意だ。	15 / 3.36	15 / 3.21	15 / 3.50
[5]私は老人を尊敬している。	2 / 4.10	3 / 3.93	2 / 4.25
[6]私は日本の老人を看護・介護することに関心を持っている。	20 / 3.07	22 / 2.78	20 / 3.33
[7]私は、体が不自由な、あるいは寝たきりの日本人の老人のオムツ交換や排泄物の世話をしてもいい。	21 / 2.91	28 / 2.51	21 / 3.27
[8]私は、体が不自由な、あるいは寝たきりの日本人の老人に対し、入浴など体を清潔にするためのケアができる。	18 / 3.11	23 / 2.76	16 / 3.45
[9]私は、認知症にかかっている日本人の老人に辛抱強く付き合うことができる。	12 / 3.54	14 / 3.27	9 / 3.79
[10]私は日本人の老人を病院に連れていってもいい。	6 / 3.76	7 / 3.53	4 / 3.97
[11]日本人の老人の世話をするために、夜勤をしてもいい。	19 / 3.10	21 / 2.84	18 / 3.34
[12]人生の最後の段階に来ている日本人の老人の世話をすることは私にとって精神的なプレッシャーになる。	27 / 2.72	23 / 2.76	27 / 2.69
[13]日本人の老人の世話をして相応の報酬（給料）をもらうのは当たり前だと思う。	3 / 4.04	2 / 3.95	3 / 4.13
[14]日本人の老人の世話をするのであれば、月給16、17～22万円程度が正当な報酬（給料）だと思う。	17 / 3.20	17 / 3.06	19 / 3.34
[15]私にとって、経済的な理由が日本で日本人の老人の世話をする大きな原動力の1つである。	14 / 3.38	16 / 3.18	13 / 3.57
[16]私にとって、日本で日本人の老人の世話をすること	13 / 3.44	13 / 3.38	14 / 3.50

¹³ 全体と、あるいは他の学科（日本語学科、もしくは看護、福祉、医薬分野の学科）との順位に5位以上の開きがある部分はゴシック体で提示する。

台湾人大学生の日本での看護・介護に関する意向調査

とは、日本永住資格の取得の大きな原動力の1つである。			
[17]日本で老人の世話をすることにより、人助けの満足感を得たいと思う。	8 / 3.70	7 / 3.53	7 / 3.86
[18]私は日本語力を高めるためなら、喜んで日本で日本人の老人の世話をする。	7 / 3.73	4 / 3.69	10 / 3.78
[19]私は日本の社会や文化に対する理解を深めるためなら、日本で日本人の老人の世話をしてもいいと思う。	4 / 3.80	5 / 3.67	6 / 3.92
[20]私は看護・介護に関する専門知識を高めるためなら、日本で日本人の老人の世話をしてもいいと思う。	9 / 3.63	12 / 3.40	8 / 3.85
[21]私は日本の看護・介護に関する先進的な知識・概念を将来自国に持って帰るためなら、日本で日本人の老人の世話をしてもいいと思う。	5 / 3.77	6 / 3.57	5 / 3.96
[22]私は、台湾人が日本で看護・介護に関する仕事をすることは国際的だと思う。	10 / 3.58	11 / 3.43	11 / 3.72
[23]私は、日本で看護・介護に関する仕事をする場合、日本人スタッフの言うことが分からないかもしれない。	32 / 2.22	31 / 2.41	33 / 2.05
[24]私は、日本で看護・介護に関する仕事をする場合、周りの人との人間関係が心配だ。	30 / 2.35	29 / 2.45	29 / 2.25
[25]私は、日本で看護・介護に関する仕事をする場合、看護・介護を受ける老人、または老人の家族とうまくコミュニケーションできるかどうか心配だ。	33 / 2.16	32 / 2.24	32 / 2.09
[26]私は、日本で看護・介護に関する仕事をする場合、仕事上の文書を理解できないことが心配だ。	31 / 2.28	29 / 2.45	31 / 2.12
[27]私は、日本で看護・介護に関する仕事をする場合、高齢者への対応に自信がない。	26 / 2.74	25 / 2.69	25 / 2.79
[28]私は、日本で看護・介護に関する仕事をする場合、習慣・価値観・宗教などの文化の違いが心配だ。	21 / 2.91	18 / 2.95	24 / 2.86
[29]私は、日本で看護・介護に関する仕事をしても、数年以内に日本の国家試験に合格できないのではないかと、という点が心配である。	28 / 2.56	27 / 2.57	28 / 2.55
[30]私は自分の日本語に自信を持っている。	28 / 2.56	19 / 2.94	30 / 2.21
[31]私は日本の社会や文化についてよく知っている。	23 / 2.81	20 / 2.92	26 / 2.70
[32]私は自分の医学や看護・介護に関する専門知識に自信を持っている。	25 / 2.77	33 / 2.17	17 / 3.35

[33]親戚や友達は私が日本で看護・介護をすることを支持してくれるはずだ。	24 / 2.80	26 / 2.65	23 / 2.94
平均	3.1923	3.0986	3.2794

まず、学生全体における 33 項目の平均は 3.1923 であることが分かった。平均の数値は最高の 4.36 から最低の 2.16 までの間に分布している。平均 4.00 以上となっているのは 3 位までの項目で、3.00～3.99 の項目は 20 位までの 17 項目で、残りの 13 項目は 3.00 未満となっている。

上位 5 位の項目は「[1]私は日本のことが好きだ。」(1 位で平均 4.36)、「[5]私は老人を尊敬している。」(2 位で平均 4.10)、「[13]日本人の老人の世話をして相応の報酬(給料)をもらうのは当たり前だと思う。」(3 位で平均 4.04)、「[19]私は日本の社会や文化に対する理解を深めるためなら、日本で日本人の老人の世話をしてもいいと思う。」(4 位で平均 3.80)、「[21]私は日本の看護・介護に関する先進的な知識・概念を将来自国に持って帰るためなら、日本で日本人の老人の世話をしてもいいと思う。」(5 位で平均 3.77)であるのに対して、最も下位に位置されている 5 項目は「[25]私は、日本で看護・介護に関する仕事をする場合、看護・介護を受ける老人、または老人の家族とうまくコミュニケーションできるかどうか心配だ。」(33 位で平均 2.16)、「[23]私は、日本で看護・介護に関する仕事をする場合、日本人スタッフの言うことが分からないかもしれない。」(32 位で平均 2.22)、「[26]私は、日本で看護・介護に関する仕事をする場合、仕事上の文書を理解できないことが心配だ。」(31 位で平均 2.28)、「[24]私は、日本で看護・介護に関する仕事をする場合、周りの人との人間関係が心配だ。」(30 位で平均 2.35)、「[29]私は、日本で看護・介護に関する仕事をしても、数年以内に日本の国家試験に合格できないのではないか、という点が心配である。」、「[30]私は自分の日本語に自信を持っている。」(並列 28 位で平均 2.56)となっている。日本のことが好きだと思う人が多い

ためか、言葉（によるコミュニケーション）由来の心配事はあまりないように思われる。

学年、日本滞在歴、日本語能力試験、高齢者の看護・介護に関する知識との関連は、2組、または2組以上の標本について平均値に対する有意差があるかどうかに関してそれぞれ t 検定（性別）、または One way-ANOVA（学年、日本滞在歴、日本語能力試験、高齢者の看護・介護に関する知識）を行った。結果は表5のようになっている。

表5 日本で看護・介護をする意向と性別、学年、日本滞在歴、日本語学習歴、日本語能力試験、高齢者の看護・介護に関する知識との関連¹⁴

			全体 (n=299)	日本語 (n=144)	看護、福祉、 医薬分野 (n=155)
意向に関する33問	t 検定	性別	× (=. 88)	× (=0. 905)	× (=0. 550)
	分散分析	学年	× (=. 626)	× (=0. 590)	× (=0. 265)
		日本滞在期間	○ (=. 008)	○ (=0. 024)	× (=0. 182)
		日本語学習歴	○ (=. 000)	× (=0. 218)	× (=0. 506)
		日本語能力試験	× (=. 0593)	× (=0. 981)	× (=0. 847)
		高齢者の看護・介護に関する知識	○ (=. 000)	○ (=0. 000)	○ (=0. 001)

学生の日本で看護・介護をする意向には男女差はない。また、学年による差も検出されなかった。なお、日本語能力試験に合格したかどうかによる差もない。

¹⁴ 相関関係あり：○、相関関係なし：×。

一方、「今まで日本に滞在した経験」については有意差が検出された。基本的に比較的長く日本に滞在した（1年もしくは1年以上）経験がある人は日本で看護・介護に関する仕事をする意向が高い、となっている。

また、日本語の学習歴についても有意差が見出されている。「日本語を選択科目として履修したことがある」者と「個人的な趣味にとどまる」者は「日本語を習ったことはない」者より日本で看護・介護に関する仕事をする意向が強いが、「日本語が専攻」の者と「日本語を習ったことはない」者を比較すると、「日本語が専攻」の者の方が意向が弱い、という結果になっている。つまり、ある程度日本語を学習したことのある人は日本で看護・介護に関する仕事をする意向が強いのに対して、日本語専攻者になると逆に意向が低くなるのである。このような現象を説明するには、学生が日本（語）がどのくらい好きか、または日本語（力）をどのように、どこで生かしたいか、という2つの方向から考えられよう。日本（語）がどのくらい好きかについては、日本語学科の学生は必ずしも日本（語）または日本が好きで日本語を専攻にしたわけではなく、それどころか日本語を専攻にしてから日本（語）が好きでないことに気が付いた、といったような学生もいる。それに対して、日本語が専攻でないのに、自主的に日本（語）に接し、ある程度日本語を習った人の方が日本に対する関心が比較的高い、ということとなる。日本語（力）をどのように、どこで生かしたいかに関しては、管見の限り、台湾における日本語学科で日本語力を日本の看護・介護に生かせと学習者に勧めることはない。従来、日本文学や日本語教育、もしくは日本とのビジネス関係などのことを主に勉強してきている日本語学科の学生¹⁵にとって、看護・介護は縁のない分野であるうえ、実際日本語学科出身で看護・介護と関係が深い医療分野の仕事に携わっている人は少ない。

また、「高齢者の看護・介護に関する知識」も学生が日本で看護・介護をす

¹⁵ 台湾における日本語学科の教育目標はおおむね、文学、日本語学、ビジネスを重視したものとなっている。

る意向に関係がある。「高齢者の看護・介護に関する知識」が個人的な趣味にとどまる人と、看護、福祉、医薬分野を専攻している学生は、「高齢者の看護・介護に関する知識」を全く持たない人より日本で看護・介護をする意向が強い。

次に日本語学科の学生と看護、福祉、医薬分野を専攻している学生、という2グループに分けて見ると、33項目の平均値は日本語学科が3.0986と、看護、福祉、医薬分野の学科が3.2794となっている（表4）。

日本語学科の学生の平均値が看護、福祉、医薬分野を専攻している学生の平均値より高いのは[1]、[2]、[12]、[23]、[24]、[25]、[26]、[28]、[29]、[30]、[31]という11項目で、看護、福祉、医薬分野を専攻している学生の平均値が日本語学科の学生の平均値より高いのは残りの22項目である。このような結果から以下の2つのことが言えよう。1つは日本語学科の学生は比較的日本のことが好きで、日本で就職したい意向が強いが、いろいろ心配することも多い、ということで、もう1つは看護、福祉、医薬分野の学科の学生は比較的性格が明るくて、老人のオムツ交換、夜勤などいわゆる3Kの仕事に対してもあまり抵抗がないが、相応の報酬（給料）も求める、ということである。これは、学生が日本で看護・介護する場合に気になる点は専攻と関連がある、ということを物語っている。

上位5位の項目についてはあまり違いはないが、下位5項目について見ると、「[30]私は自分の日本語に自信を持っている。」で「看護、福祉、医薬分野を専攻している学生」が日本語学科の学生より、「[32]私は自分の医学や看護・介護に関する専門知識に自信を持っている。」で日本語学科の学生は看護、福祉、医薬分野を専攻している学生より数値が下回っている。2グループの差が大きい（順位5位離れた）項目は9項目あり、日本語学科の方が順位が上にあるのは「[2]私は日本で就職したい。」、「[18]私は日本語力を高めるためなら、喜んで日本で日本人の老人の世話をする。」、「[28]私は、日本で看護・介護に関する仕事をする場合、習慣・価値観・宗教などの文化の違いが心配だ。」、

「30. 私は自分の日本語に自信を持っている。」、「[31] 私は日本の社会や文化についてよく知っている。」という5項目で、看護、福祉、医薬分野の学科の方が順位が上にあるのは「[7] 私は、体が不自由な、あるいは寝たきりの日本人の老人のオムツ交換や排泄物の世話をしてもいい。」、「[8] 私は、体が不自由な、あるいは寝たきりの日本人の老人に対し、入浴など体を清潔にするためのケアができる。」、「[9] 私は、認知症にかかっている日本人の老人に辛抱強く付き合うことができる。」、「[32] 私は自分の医学や看護・介護に関する専門知識に自信を持っている。」の4項目である。このような順位も学生の専攻に強く関係していると考えられる。

「[21] 私は日本の看護・介護に関する先進的な知識・概念を将来自国に持って帰るためなら、日本で日本人の老人の世話をしてもいいと思う。」という項目は、学生全体ならびに「看護、福祉、医薬分野を専攻している学生」の5位に、「日本語学科の学生」の6位にランキングされている。日本政府が最近打ち出している「外国人の母国への技術移転」という方針は、台湾人学生の日本で看護・介護をする意向を強めることに効果があると思われる。

日本語学科の学生が日本で看護・介護をする意向は男女、学年、日本語学習歴、日本語能力試験に合格したかどうかによる差がないのに対して、「今まで日本に滞在した経験」、「高齢者の看護・介護に関する知識」には有意差が検出された（表5）。看護、福祉、医薬分野の学科の学生は「高齢者の看護・介護に関する知識」にのみ有意差がある（表5）。

4-4-2 因子分析

この節では因子分析法を用いて各項目間の関係を調べる。評定項目間の因子構造を探るために、主成分分析法による因子分析を実施した。回転前固有値 > 1.0 の条件で因子を抽出し、さらに解釈を容易にするため、Varimax 回転を実施した。この条件で学生全体の回答から8因子が抽出された。この8因子で全

分散の 66.873%が説明されていた。各因子に含まれる項目は表 6（左の欄）の通りである。

表 6 日本で看護・介護をする意向における因子分析(各因子に含まれる項目)

16

全体 (n=299)				日本語学科 (n=144)		看護、福祉、医薬分野の学科の学 生 (n=155)		
回転	因子	項目	回転	因子	項目	回転	因子	項目
後の 成分 行列 成分	1老人の 世話	[6]、[7]、 [8]、[9]、 [10]、 [11]、 [14]、 [32]、[33]	後の 成分 行列 成分	1コミュニ ケーショ ン不安	[14]、 [22]、 [23]、 [24]、 [25]、 [26]、 [27]、 [28]、[29]	後の 成分 行列 成分	1心配	[23]、[24]、 [25]、[26]、 [27]、[28]、 [29]
	2心配	[23]、 [24]、 [25]、 [26]、 [27]、 [28]、[29]		2ハードな 仕事	[6]、[7]、 [8]、[9]、 [11]		2専門知識	[10]、[14]、 [17]、[18]、 [19]、[20]、 [21]、[22]
	3知的成 長	[17]、 [18]、 [19]、 [20]、 [21]、[22]		3知的	[17]、 [18]、 [19]、 [20]、[21]		3ハードな 仕事	[6]、[7]、 [8]、[9]、 [11]
	4明るい 性格	[3]、[4]		4自信	[30]、 [31]、[32] [33]		4日本滞在	[2]、[15]、 [16]、[33]
	5知日	[30]、[31]		5明るい性 格	[3]、[4]		5敬愛	[3]、[4]、[5]

¹⁶ 分かりやすくするために同じ因子については同じ色を施している。

	6日本好き	[1]、[2]		6日本好き	[1]、[2]		6専門報酬	[1]、[13]、 [32]
	7報酬	[15]、[16]		7老人に対する尊敬	[5]、[10]		7知日	[30]、[31]
	8精神的なプレッシャー	[5]、[12]、 [13]		8給料	[12]、[13]		8プレッシャー	[12]
説明のつく比率 (%)	66.873		説明のつく比率 (%)	70.222		説明のつく比率 (%)	69.981	

因子抽出法：主成分分析

第1因子は[6]、[7]、[8]、[9]、[10]、[11]、[14]、[32]、[33]といった計9の項目からなる。これらの項目は主に老人の世話をすることに集中しているため、「老人の世話」因子と呼ぶことにした。

第2因子は[23]、[24]、[25]、[26]、[27]、[28]、[29]、のような、いろいろな心配事を示唆する7項目が含まれるので、「心配」因子と名付けた。

第3因子を構成する[17]、[18]、[19]、[20]、[21]、[22]の6項目は日本語力の増加や、日本への認識が深まることなどを重視しているので、「知的成長」因子とした。

第4因子は性格の明るさや、対人関係についての自信を表す項目（[3]と[4]）で構成されているため、「明るい性格」因子と名付けた。

第5因子は2項目（[30]と[31]）で構成されており、2項目とも日本に対する認識や日本語に自信がある性質が強いので、「知日」因子と命名した。

[1]と[2]の2項目で構成されている第6因子は、日本が好きで、日本で就職したいという内容から「日本好き」因子という名を与えた。

第7因子は[15]、[16]といった給料や日本での永住権にこだわる要素が入っているので、「報酬」因子とした。

因子8は3項目で構成されており、負荷量が最も高い[12]という項目に因んで「精神的なプレッシャー」因子という名を与えた。

このような因子分析の結果から、台湾人大学生が日本で看護・介護をする意向の強い人は、明るい性格の持ち主で、日本が好きのみならず、日本のことをよく知っているうえ、老人の世話をしたいが、合理的な報酬も知的な成長も求める一方、精神的なプレッシャーを感じたり心配事もあったりしている、といういろいろな面が含まれると言えよう。

また、日本語学科の学生と、看護、福祉、医薬分野の学科の学生という2グループに分けて、各々因子分析を行ったところ、2グループとも8因子を抽出している（表6縦中と右の欄）。このうち、[6]、[7]、[8]、[9]、[11]で構成されている「ハードな仕事」という因子が2グループに共通することが分かった。

4-4-3 学生が考える「日本で看護・介護に関する仕事をする場合の適切な期間および報酬」

表7で示すように、「日本で看護・介護に関する仕事をするとしたら、適切な期間は」という質問に対し、「1～5年間」を選んだ学生が専攻を問わずに最も多く（190人；63.8%）、次は「1年以内」（69人；23.2%）となっている。つまり、5年を越える長期間にわたり日本で看護・介護に関する仕事をする意向を示した人は少数派だと分かる。とくに日本語学科では、1年以内という短期間が適切だと考えている学生の数が3割を越える高数値に達している。

また、日本での介護福祉士の月額給与は218,900円ぐらいだという¹⁷。今回の調査では、日本で看護・介護をする月給として、「20～25万円」が適切だと思う学生が88人（全体の29.8%）と一番人数が多い。以下順次「25～30万円」

¹⁷ 「介護福祉士の給料・年収」（<http://careergarden.jp/kaigofukushishi/salary/>）（2015.5.12）

の 69 人（全体の 23.4%）、「30 万円以上」の 66 人（全体の 22.4%）となっている（表 7 の下段）。台湾人学生が期待している報酬は日本の介護現場で出されている実際の金額を上回っていることが分かる。とくに看護、福祉、医薬分野を専攻している学生は、日本語学科の学生よりも 25 万円以上の報酬を適切だと考える者が多い。

表 7 学生が考える「日本で看護・介護に関する仕事をする場合の適切な時期および報酬」

		全体 (n=299)		日本語 (n=144)		看護、福祉、医薬分野 (n=155)	
		数	%	数	%	数	%
日本で看護・介護に関する仕事をするとしたら、適切な期間時期は	1 年以内	69	23.2%	48	33.3%	21	13.6%
	1～5 年間	190	63.8%	83	57.6%	107	69.5%
	5～10 年間	35	8.4%	9	6.3%	16	10.4%
	10 年以上	4	1.3%	2	1.4%	2	1.3%
	一生	4	1.3%	1	0.7%	3	1.9%
	その他	6	2.0%	1	0.7%	5	3.2%
日本で看護・介護に関する仕事をするとしたら、適切な報酬（月給）は	10～15 万円	4	1.4%	2	1.4%	2	1.3%
	15～20 万円	63	21.4%	32	22.4%	31	20.4%
	20～25 万円	88	29.8%	48	33.6%	40	26.3%
	25～30 万円	69	23.4%	32	22.4%	37	24.3%
	30 万円以上	66	22.4%	28	19.6%	38	25.0%
	その他	5	1.7%	1	0.7%	4	2.6%

なお、日本語学科の学生と、看護、福祉、医薬分野を専攻している学生という 2 グループに分けてみても、各グループの学生が考える「日本で看護・介護に関する仕事をする場合の適切な期間および適切な報酬」における傾向（表 7 縦の右 2 欄）は学生全体の考えとあまり変わらない。

5. まとめと考察

本研究ではまず、学生の日本で看護・介護をする意向の傾向（同感の意を表す項目のランキング）を明らかにした。「[21]私は日本の看護・介護に関する先進的な知識・概念を将来自国に持って帰るためなら、日本で日本人の老人の世話をしてもいいと思う。」という項目がかなり上位に位置していることより、日本政府が最近打ち出している「外国人の母国への技術移転」という対策は、台湾人の学生の日本で看護・介護をする意向を強めることができるだろう。また、「[2]私は日本で就職したい。」は日本語学科の学生には魅力的である（9位）が、看護、福祉、医薬分野を専攻している学生にはそうではない（22位）。なお、「[16]私にとって、日本で日本人の老人の世話をすることは、日本永住資格の取得の大きな原動力の1つである。」は台湾人の学生にとってそれほど心をひかれる項目ではない（「全体」・「日本語学科の学生」とともに13位、「看護、福祉、医薬分野を専攻している学生」14位）。

また、比較的長く日本に滞在した経験がある人、日本語学科でないがある程度日本語を学習したことがある人、高齢者を看護・介護に関する知識を有している人は日本で看護・介護に関する仕事をする意向が強い、ということも分かった。

因子分析に関しては、台湾人学生が日本で看護・介護をする意向の「老人の世話」、「心配」、「知的成長」、「明るい性格」、「知日」、「日本好き」、「報酬」、「精神的なプレッシャー」という8因子を抽出した。

日本で看護・介護に関する仕事をする期間については、1～5年間が適切である、と考える学生が最も多い。また、1年以内という短期間が適切だと思う学生の割合が、日本語学科では3割前後に達しており、看護、福祉、医薬分野を専攻している学生の割合（1割あまり）をかなり上回っている。

報酬に関しては月給20～25万円が適切だと思う人は少なくないが、25万円以上が適切だと思う人よりは少ない。とくに看護、福祉、医薬分野を専攻して

いる学生の方は 25 万円以上を期待しているようだ。

よって、台湾人を日本の看護・介護現場に短期間赴かせるのであれば、日本語を専攻とした者より、看護、福祉、医薬分野を専攻とした者の方を導入することの方が実現しやすいのではないかと。しかし、看護、福祉、医薬分野を専攻とした者が期待する報酬は高い。もし、日本で看護・介護をする台湾人に日本語学科出身者を増やしたいのであれば、日本語学科の教育方針や、コースデザインという前端に日本の看護・介護に関する事情を刻み込むことから始める必要がある。そのような発想の転換には日本語学科の教師の考えが大事だと考えられるが、そもそも彼らは日本語学科出身の者が日本で介護の仕事をするかをどう考えているのか。その点についての考察を今後の課題としたい。

参考文献

- 安立清史・大野俊・平野裕子・小川玲子・クレアシタ（2010）「来日インドネシア人、フィリピン人介護福祉士候補者の実像」『九州大学アジア総合政策センター紀要』 5、p. 163-174.
- 出井康博（2014. 9. 9）「「人手不足」と外国人（1）「介護士・看護師受け入れ」はなぜ失敗したのか」（新潮社 <http://www.fsight.jp/29132>）（2015. 3. 3）
- 王敏東（2010）「台湾の大学における第二外国語としての専門別日本語教育—医学日本語を出発点として—」『台湾日本研究』 4、pp. 133-161.
- 王敏東・呉致秀（2013）「日本でのワーキング・ホリデーに関する一考察—日本語専攻の台湾人へのインタビューを通して—」『台湾日本研究』 7、pp. 25-61.
- 海外技術者研修協会（2010）『場面から学ぶ介護の日本語』 凡人社
- 国際交流基金関西国際センター（2009）『外国人のための看護・介護用語集：日本語でケアナビ 英語版』 凡人社
- 佐藤和美（2014）「グローバル化時代の言語と「人の移動」—開かれた日本に向けての日本語教育—」『淡江日本論叢』 29、pp. 77-101.
- 高本香織（2011）「異文化間看護・介護とコミュニケーション：EPAに基づく外国人看護師・介護福祉士候補者の受け入れをめぐる」『麗澤学院ジャーナル』 19、pp. 33-43.
- 独立行政法人国際交流基金関西国際センター（2011初版三刷）『外国人のための看護・介護用語集 日本語でケアナビ 英語版』 凡人社
- 畠中香織・田中共子（2012）「在日外国人看護師・介護士候補生の異文化適応問題の背景に関する研究ノート—EPA制度とその運用—」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』 34、pp. 79-90.

平野裕子・小川玲子・大野俊（2010）「2 国間經濟連携協定に基づいて来日するインドネシア人およびフィリピン人看護師候補者に対する比較調査—社会経済的属性と来日動機に関する配布票調査結果を中心に—」『九州大学アジア総合政策センター紀要』 5、pp. 153-162.

（2015. 1. 24）「介護、一定の日本語力を 外国人技能実習で要件 厚労省中間報告」
『東京新聞』

（<http://www.tokyo-np.co.jp/article/politics/news/CK2015012402000119.html>）（2015. 1. 24）

「介護福祉士の給料・年収」

（<http://careergarden.jp/kaigofukushishi/salary/>）

（2015. 2. 15）「介護報酬改定 特養での看取り充実へ…家族との対話、より密に」『産経新聞』

（2015. 2. 8）「9 年ぶり 介護報酬下げの波紋」

（<http://news.yahoo.co.jp/pickup/6148922>）（2015. 3. 3）

中国語

陳貞如（2009）「日本對外籍看護需求之研究」『商業現代化學刊』 5（2）、pp. 189-198.

財團法人交流協會（2009）『台灣民眾對日本觀感之研究』

（[http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3_contents.nsf/04/C9CA3F8E34ED24E54925759F0037BE8F/\\$FILE/Chinese.pdf](http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3_contents.nsf/04/C9CA3F8E34ED24E54925759F0037BE8F/$FILE/Chinese.pdf)）

陳貞如（2010）「日本外國人看護政策下看護人員需求之研究」『長榮大學學報』 14 卷 1 期、pp. 1-11.

財團法人交流協會（2012）『2011 年度台灣民眾對日本觀感之研究 精簡版』

（[http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3_contents.nsf/04/16EC678EAD086E6149257A22003444FF/\\$FILE/2011tainichi-yoroncyousa2zhongwen.pdf](http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3_contents.nsf/04/16EC678EAD086E6149257A22003444FF/$FILE/2011tainichi-yoroncyousa2zhongwen.pdf)）

王敏東 (2013) 「日本的老人照護」『當代醫學』第 40 卷第 12 期、pp. 979-987.

黃菁菁 (2015. 2. 27) 「日本同為少子化所苦」『中時電子報』

(<https://tw.news.yahoo.com/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E5%90%8C%E7%82%BA%E5%B0%91%E5%AD%90%E5%8C%96%E6%89%80%E8%8B%A6-215032006.html>)

(2015. 3. 3)

高級中學第二外語教育學科中心「102 學年起普通高級中學開設第二外語課程學校、班別及人數統計表」

(http://www.2ndflcenter.tw/class_detail.asp?classid=61)

